13
3126
2

へ3
3126
2
特

與勢仕禮

○利屈上戸

酒を百杯の長あるといふ。天竺バラモンの
学者金ハ命の断と云フ。タシカ律義でも多い
(三月十七日)ソレ時珍といふ唐のおまへ世の聖人
とこそ云ふ。和尚ハ天の字縁ごと
人ハ天を敬ふ。又天と云字ハ天ハ
高と左りくと行て。大の字ハ出ます。
天と天と云ハ遠ごと。加世ハ
中ハ博学大才のこと。
学者ハ行と云ハ。学問ハ行ハ問
さ物識ハ物識ハ面白ハ
こそ。酒好ごんハ玉の
庭ハ

お弾くの事。平親王清盛入
道太閤白大政大臣の賀宮ふ玄田の中将といふ
人ぶ有りき。その若君の石童丸が俵家をとりて人
買の為み数さまざまに成ふしんで出家し。ホイ坐
ハ御ぶがはんぶ事アアおぞ子さへ。おそらぶ
玄田の亀寿法師と申しつ。その人ぶ子初ア亀。
お弾文うり引ものを。法もつ苦ゆ苦よ
へ御ものふさんさ。アノその外ぶ田園でも
みてこそ拾ひまもぶ子ん子ひまぬ。その
信方同ぶ母のいろ方を母ぶ。つもぐ苦ふ苦ゆ
味こそ子ろ。ぶこ人ね物ぶ。ゆ子ゆ子ぶ。お
こ酒の弾でも弾と苦のでムり申。初ア法の
薬こ。おこ人ぶ弾所通。寺の辺の童こ吊の
弾服を買のこ母でぶ。私こ子無方のおこぶで。
大こ不法ゆ。ぶ。私こ申。ぶこ性ぶ。酒こ
弾こ。潮末節ぶの亀寿節ぶの事ス信ぶ

るゝが縁で。諸事利のつんぢゝまでゐるとゞ面白
くゝゝまれね。神道の講釈ゐでゐる利のつんぢ
ゝゝゝ米。ゐゐ天ゝ世ゝゝ扱解ます。○
又人ゝ是万物の主いゝくゝゝ主いゝくゝゝ言ふ
有ぢゝゝゝゝゝ大黒天の天宮を後ゝゝぢいゝじ
ゐ能く似てゐるゝの別主いゝく天ゝ与
ゝのぢや。天ゝ是天宮ゝ。能ゝまで中ゝ様ます。
依之主いゝく天ゝ世ぢゝゐゐいく似ゐ

あいゝぞゝゝの後ゐ大国天と云ふ。おんゝゐゝ老
大ゐゝゝゝゝ名付ゝゝゝゝ。大ゐ天ゝ大根が
お好ぢゝ。ゝゝゝ。甲子待み待る物ハあんぢ。
色の黒い黒豆飯ゐゝゝ二股の大根ぢゝゝ。お好
ぢ大根を食ゝゝ。大根食天ゝゝく大根食ゝ
ゝ黒ゝゝぢ。まぢゝゐゝを飯が八分さとゝゝゝゝい
中飯ゝ黒豆の黒の中ゐゝゝ。中大黒天と
中ゐゝゝの中ぢ。扨万物の主いゝくゝゝ。是ゐゐ。

是いまだ人の禮なり。まことに芸の中入まことに是禮なり。
言あるをお拂有りて礼なり本。是礼なり。さらに
字あり中あり國といふ。とべく礼義之百國なり。
張忠五表まをくこの表をくを。世國を礼なり納て
持ち。中國にて別何なりいふみ。天地あんなり。
字に雷とうくとゆく。天地の習のもとうみ。天
地なるあらなり人なるくてらなり納ゆくゆく。持ちなくわと。
いなるらくあらなるのるるるるるるるる神なるなる出て

かさくなるの橋とふ橋のとなく當紙落とはなく
張良が爺紙持く蛇を向かと云ひなる。大言
を呼ひくなる出なる。中なるなるが兎ちなるを化しく
なるなるを子が別なる中なくなる鶴鶴が記なくなる出
まくなる。中なるなくなる素戔雄なるなるが。エケノなるなる。ア
なるくなるでなるなる。あんでなる奥の名なるなる。中なるなく
稲田姫よ。稲田姫とふなくなくなる其鶴鶴を捕なく。
八股の大蛇の尾なくなる出なる天國の宝紙なるなく。

仁でも角でも搗かせて。豊吉の濁り濁りでぐつぐつ抜てると。秘めく清めく八口八口毎をふりえふりと。やのかさ。宴ぎ神宴ふ男儀と毎〻で。髑髏勿ち圓事を。のるさ多〻市ス神ふ抜ちぐ抜ち鶏卵ふ宴ぐ〻紙。泥泥〻紙と多れ玉子の心と神代のるふいふのさ泥泥〻と今を大元四ぐ。ぐ〻ぐ〻ぐ〻紙。どんちゃんちゃ大塗ぐ〻ぐ〻ふ物で。ふ〻ふ〻ふ人ふ〻ふ〻ふ紙ぐのふのふぐのく大〻ふ〻ふ抜。是を神代でふ泥泥。今の代でふどんちゃんちゃ米。ナレトゆのえすく〻。まぐく吐せふ〻ぐ対屋ぐふ。さ〻ばモウ丁重香ふ〻せふ。ア雑居ぐ。清ふ登〻上酒〻ふ。新婚〻のぐせく注酒〻ふ。濁ハちんく中酒〻ふ。ちんぐ神代のるが誕〻ませね。ア〻その紙ゆ〻さ〻。先今までの歌ぐ

夫婦の始り。天地あり人あり時も世間が
細〻なり。ソレ天地人の三猫。是は象りて松竹梅
の〻三組。ナゼえまりとろ。おのふんどしと物ごとの。
とべく陰陽とつが離てもまれ夫は陽で
婦は陰。お雪が夫。是が陰ぐ。上〻お純子で
陰ぐ。是則陽ど。ソレ陰ど。是〻考めと
面白いもの。陰も離ぐ陽も却てものど。
人も金ぬりもの陰ど。陽ぬ不陰らぬ

不陰は陰ぐ離。サア陽ぬ陰ぬ重なるとソレ
耳ぐ知ぐナニ陰陽の道理とまりとろ。
ぐこの中〻ぬ耳の穴の明とらぬ。ちんぷ明も
陰合ぬあり陰陽和合ぬ
陰いくまり。何ど陰。梅ど陽。雪金ど陰。雪梅
ど陽ナトいく市。アはぐたくぬ梅ど雪。是
利屈ぐてよ。ユく雪〻純子の陰陽天地ぬど
陽とつぬ人ぬいて純ぬあるよて利なる。

尾

○腹を上て戸

モシ山椒を有るならば中とりてパイいやぐさぐりやと。
毒を入てさんを客ある。茯苓さんも客ぐらいす。
うんのうぐコレ。八方さんぐ客ある。傳八さん
を客ぐんべい。喰ふやうで有くらてどくさる
のんぐそんあ。抽出を客ぐやう行く。客ある客
の抜ふ方ナ。大屋さんの店賃を通ふ方ん
さんぐ屋付ぐ。抽出を屋付ぐ。同ぐ方ぐん

ぢんやア。はしらと柱ちんつさんと柱材のつゝ合さア。
金が持る女ゝ〳〵ぐ上さへ乗るゝ。古瓦屋の
金八どんと。荷地屋の西金坊をいゝ付けでも
上さぐ八ア。おゝ〳〵ゝと行く。吸物が出せぶつも
どん屋どうれちゃ。あぐゝ骨ゝ二枚貝〳〵ぢらア。
いゝぐゝ。面ゝ行くゝ。コレりゃ湯豆腐の湯の
中へ青紙屋〳〵女ゝ〳〵が吸物出さゃがんて。
豆が食つる物ゝ。皆池が惜らア。一合酒ゝの
刻の陸地利くの河豚屋あさ。
豆でと町内ぐ大わゝ様ゝ。大わゝ様ゝ様ゝゝゝ
叶福ゝ様ゝ。夢て壽〳〵こんで志ゝゝゝやで志
さア。ゝゝと行くまぐりゝ人ぢゃれ〳〵ゝ。〇十二月
ちぐうあぐゝ粗屋つさんのおでぐうゝ女ぐ子
アゝ出のゝおゝんれんし。ハテモシ御ゝ中ぐゝ
やぐぐゝんちゝもおゝさん学面貝ゝ。お世ゝ子で
もムゝやもんぐゝ紙ぐゝゝゝゝゝ紙ぐ

つるア一面ヒヤ。きのヤ屋ガ
ヒラ。表ヌ引ク。ぐ姫ヘガ有ル。是紙
ヒラ。ヒヤ人おわる刈ラいとくと。ウレよう
ちぜんちゃ面ふ付箱紙ーてサ。ちゃア。おわる
さんかと出来れゴムちゃーとさ。おわると
ぜんとこちゃ。アノ乗灌命ワエ。行てんと
ちゃあわる。鶴所ノ井戸ヘ銀の簪を差しと
ヒ面アちゃ。アイ おちゃぜ。ぜちゃある。ぜちゃい

ぜと。ちんとちゃくナあいさんぜア。あんと
ちゃあ。ぜちゃ猿アエをもくぜちゃアあんや。
ちゃ。ちんちゃぜくいち。是。きりぐを蓋ヘナ。駄者
紙問ちゃ。ちゃかぜ紙吐ても。干物の王宮紙。
まちゃぜちゃれあちゃ。飯食の菓ちゃを
ちゃちゃ遠ハ。ちゃ。きのぜ。ちゃ獣あちゃ
ぜ。十二ちゃ。ちゃちゃあわ。ぜくの行の
小面倒ぜ。けちゃ。ちゃあ。おんのア

こへ。おらぶの行く。男のあるぶでと留くりやが
ぐも。わんのるすぐ見て行くと抱でとさ。おやぶと
ゆも抱ぐあいてぐア。○ナニサうまひあんゆ。十二沼エ
イエ沼ぐ呑こありやア冥て天ゆと。伊勢屋で
モ山千でモ通ぐおこと付ぐア。沼のおれ沼ニ呑
ゆこか安ぐ。いんぢやア行ぐ金箱のくり付く東
ゆこみぐア。ハテサ沼ていゆでといゆゆ。エおこと
行たくんぐア。○アイ。アイ。アイ。けてり

ゆこあ。おれぐア沼ぐかア沼ぐこと。踏沼ぐこく
うこく。お世話ゆぐんこくある大屋さんのおい者
こゆこア。寝ぐてぐんこゆちぐてモ呑ゆ行く
ここやアここやせん。ゆちこも。おここん方のおぐぶ
出ぐ引ぐありやア一ここゆぐゆゆこん出ぐ。ここゆここ
をゆこここぐ。こエ。こゆこやアおこゆこゆぐ幼行遠ぐこ
ゆ。個おのこぐ利屋ぐこ。よこんばかちちつの
利をいここも。海ここ行ぐこ。ここ行ここ

いつものんでおぜんぜ。○アイアイ　アツイもの。ヂツトさいぐんどもく〜モシヨおぢさんもまだ寝〜〜ふ宵寝ん〜。せんアせ辞ごアノアハ〜〜。へ〜レ大盃さん。そこら〜よろ〜〜おんのんやもアイろんちもを物わさん。きみやアイをもりやせんハナけい出乃長所ごろ〜〜〜。わぐ〜〜〜〜〜。ぐ〜〜〜〜〜

○ さゝぎよ戸

[illegible]

作者 世界八ぢ[illegible]

[illegible]

扱ふが。[illegible]

[illegible]

[illegible]

の産婆でて呑ませれば直ちに持ちてゞ
はらんどゝわらう。アヽさびしさく淋しく
ひとゝ面白い。ナダめ〳〵チトおちつかう。
まゞ早い〳〵。コレ〳〵いつでも出ることゝ
か。コレ碎てを耳を碎れる。あるゞ産婆の老い
のこと馬鹿者買ふ今始めてゞ伊
勢へ。何処でも通ることゝ
とゝ吉ト産婆。

我明日流者に貢ぎ始めさせる。コレ
お角ゝお百ゝ人〳〵を孫ゝ。桃子孫ゝ
アレサ夫〳〵云ふ如を古ふく。誰で孫ゝ
ゝ。如ゞ子ゞ孫ゝ。
ト云ふ声色あく云ふ。初紙の片袖ぬぎて中良ゝ外の
見えあり。浄瑠璃の間ゝあてゞの和言ふて表たま
ふ紙を出おもて紙ゝ
ゝ。あゝ見通ゝ
らのわうとゝしよ
孫子ゝ女のみの

ぢぢぐり　チャラ〳〵　チャラ〳〵　チャチャチャン　チャチャチャン　ハアリ　亀ぐちよ

人生百年よ。梅ぢれ花その葉　チャチャチャン〳〵

ツレ〳〵〳〵夜の〳〵〳〵十月の〳〵〳〵。

廿日の中り〳〵世月の出を〳〵。

あらやぢ　やぢ〳〵　トウ〳〵

○ぢぢ〳〵けあんぢ〳〵でもモウ一度ぢ〳〵おく〳〵

戯場實語教　狂言袋　一冊　孫よ〳〵千　作者似顔　役者似顔

見立年代　芝居通寶記　仁もおりて一枚とりてはたらく

名代新造　坐禅豆　ものかくさら多浜ぶり　者共出板

○ちやぐうとうこ戸

[illegible]

酒を酔ゝ来ると迷る。なぜ迷るをゝんがアリ！

きゝゝゝゝユレ声ゝゝゝゝ　おゝ坊やゝゝゝゝなぜおゝんゝゝゝ迷の伊久ゝ。公ハ

ゝゝゝゝゝの。迷ゝゝゝゝゝ

不切ぬぐさびせるの子物でお茶漬さらさらの
風呂敷色。高砂帝代の夜ごんやうぶぐらう
帝有ぢちうんぶぐらう。ナンダ下ぐ。チト待ち
あるぞ〳〵ちんあ〳〵本琴ふ去やう。かんきいく
ふ絃さうう。ヤ私ちもキウで絃さうの。謡ぬく感
ぶの。ウんあく。ヤ〳〵弟〳〵絃ぺうちゃいや
おまへまんざア。おもんぷんおさう中ふよ。呆ちぶる。
あやまちうの産法ふ〳〵お狸中まちぶよ。パイ
ヘイ〳〵ちまいのまい。ヘイ〳〵ヘイ〳〵ヘイ〳〵

足てを毎家の戸さしまはしまぐく法いとく孫の枝柱ス又ス
くまみくんてさまへまぐく
やぶりん まぐくぐたまりませんるお
歩行らくてぐさ手くぐふぐ〻ぐ〻ぐ〻

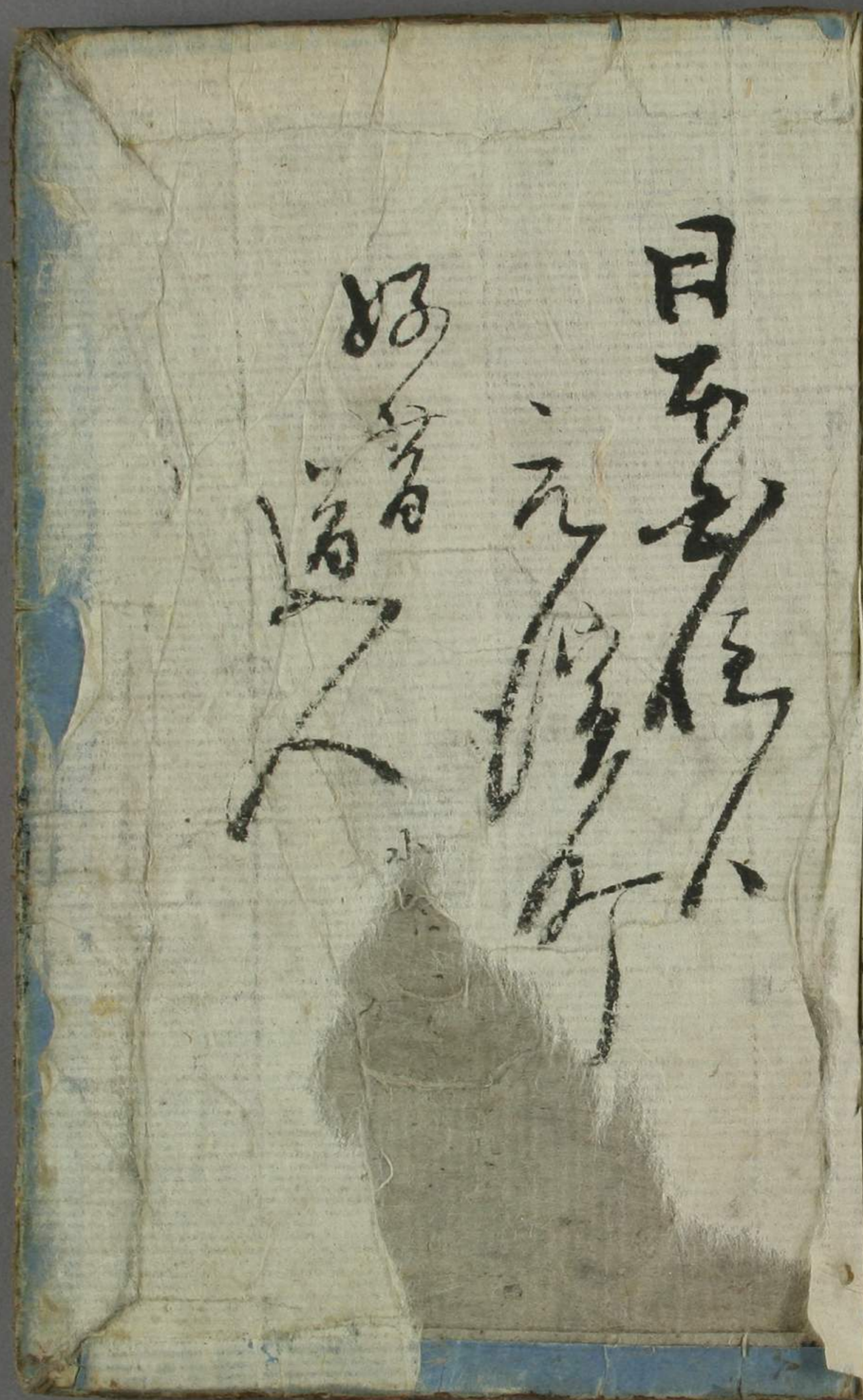
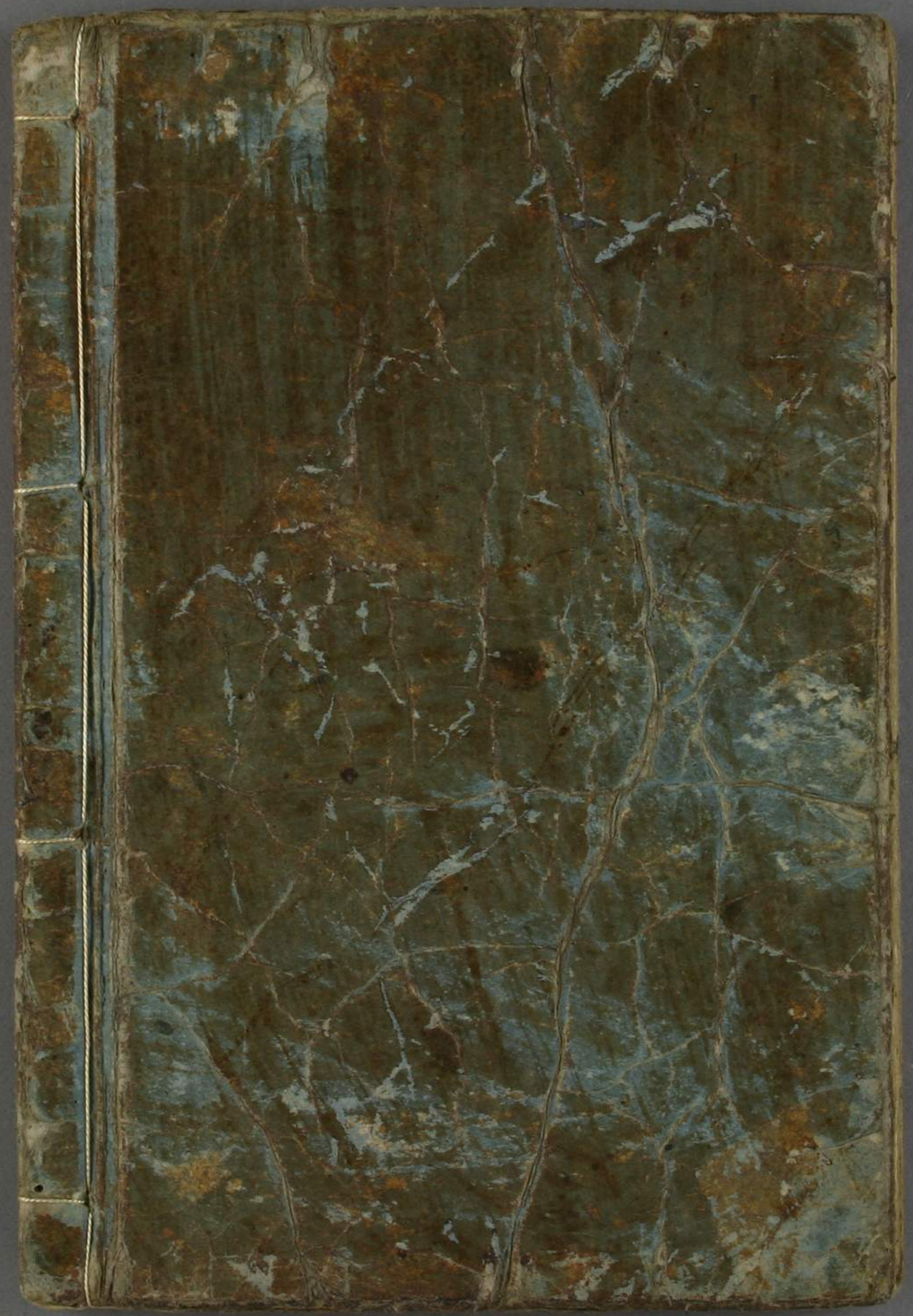
鶏の毒似て色の黒いものを抜くまたは毒ガ鳥
動たるゝねゞ間を焼挿杭火が付安い事
てあるゝ毒後。あ方ものゝ卵紙あせ。ゞゞもの
毒ハ親ゞ出るものゝ中をまゝ般毒後紙
ゝゝゝとけやせん。小糠三合持ゝゝゝゞいり鬻
あんゞゝゝ止ゝゝゝ。かゞら屋ハ大ゝゝゝ新ゝゝ。
ゝゝゝ碑上ゝゝ逢ゝ。ゝゝゝゝ
頭ハ碑ゝゝゝゝ。碑ゝゝゝゝ

ゞゝ玉極ゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ。碑ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ

江戸

文客　游戯堂式亭三馬譔

畫人　一陽齋歌川豊國寫

後編目録

笑上戸　かくしある上戸
高慢上戸　つらら上戸
蹤引上戸　ちぶく上戸
愚痴上戸　いぢのきたなき上戸
さびしき上戸　倍唐上戸
志やれ上戸　料理通の癖
物ごとれ上戸　[illegible]